

TOBU

私たちは、
医療を通じて
いのち
生命を守ります。

2019
NOV
冬号
vol. 28

患者相談窓口のご案内

当院を利用されている患者さんやご家族が抱えておられる、
下記のような心配ごとやご相談やご意見をお受けいたします。

- 医療費など経済的な心配がある
- 身体障害者手帳や介護保険などの公的サービスについて知りたい
- 転院先の病院について知りたい
- 退院後の生活に不安がある
- 防衛費などを利用したい
- がんについて知りたい
- 医療安全について知りたい
- 無料低額診療事業について相談したい
- 医療過誤について相談したい
- かかりつけ医を探してほしい
- 当院で受けている診療について
- その他

5 患者相談窓口

Patient Support Counter 患者咨询窗口

済生会横浜市東部病院広報誌

患者咨询窗口

さわやか
相談室



[特集]

心と体のよろず相談受け付けます

東部病院の がん患者サポート

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL
医療 財団 済生会横浜市東部病院

【東部病院の緩和ケアチーム（一部スタッフ）】

前列向かって左から：
リハビリテーション部 平塚沙織、緩和ケア内科 奥澤星二郎
看護部 佐野紀美、リハビリテーション部 渡辺千尋
後列向かって左から：
医事企画室 地場秀爾、薬剤部 西 悠吾、心理室 水野将樹

[OTHER CONTENTS]

▶ LEADERS

緩和ケアセンター長・
緩和ケア内科専門部長・消化器外科医
奥澤星二郎

▶ NEWS & TOPICS

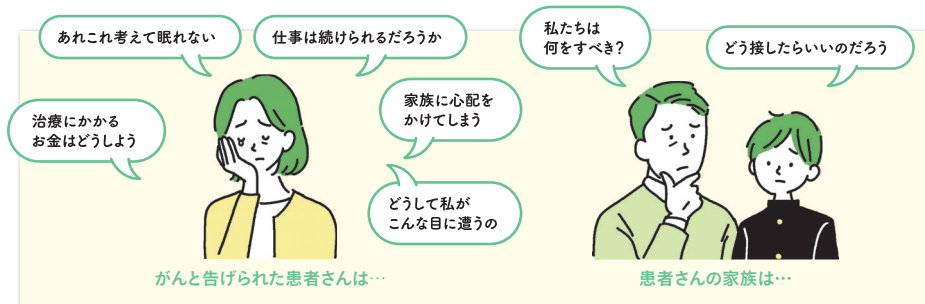
WEB予約サービス開始
子どもと医療を結ぶプロジェクト ほか

がんと告知されたときから あなたの心と体を支えます

いまや日本人の2人に一人ががんになるといわれています。もし、あなたやあなたの大切な人ががんと診断されたら、どう感じるでしょうか。大きな戸惑いや不安に悩まされるかもしれません。そんなとき、身体的な痛みはもちろん、患者さんやその家族の心の痛みにも対応し、働き方や治療費のことなど患者さんの暮らしにまつわるあらゆる相談に応じる、当院にはそんな仕組みがあります。

心と体のよろず相談
受け付けます

東部病院の
がん患者サポート



がんと告げられた患者さんは…

患者さんの家族は…

治療と共に支援も開始

患者さんは、治療をしながら生活していく際にいろいろな痛みやつらさを抱えます。これを和らげ、患者さんをずっと支えていくためのケアを「緩和ケア」といいます。当院では、がんはもちろん、心不全などの患者さんを対象に、この緩和ケアを行っています。

「緩和ケア」というと、がん治療の終末期に行われるものと思われがちですが、そうではありません。診断されたその日から、患者さん本人やそのご家族に対しても行われるもので、病気の進行の程度は問いません。

なぜなら、がんなどの病気は、治療開始と共に、疼痛・倦怠感などの「身体的な痛み」のほかに、さまざまな種類の「心の痛み」による不眠や抑うつ状態などを生じることがあるからです。体の治療と共に心も支える、それが緩和ケアです。

そうすることで、患者さんは治療に前向きに臨むことができ、よりよい経過を期待できま

す。そして、気持ちの余裕を取り戻すことができれば、「その人らしい暮らし」を送ることもつながります。

専門チームがあなたを支えます

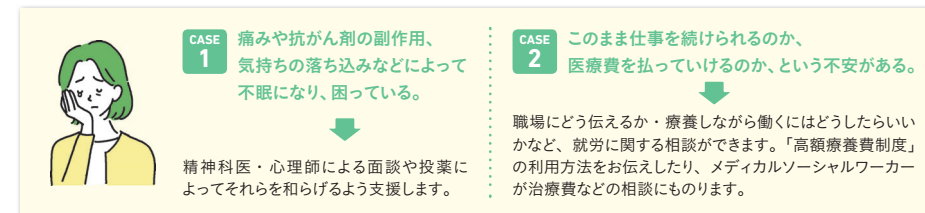
当院には「緩和ケア」を専門とするチームがあります。医師・看護師のほかに、薬剤師、心理師などいろいろな職種が集まり、一丸となって患者さんの心と体の痛みを緩和し、社会的・経済的な悩みを解決する手助けをしています。

治療の開始にあたり、患者さんの承諾を得てから、緩和ケアチームが主治医や担当の看護師と連携してサポートを始めます。入院・外来を問わず、患者さんご自身やご家族からお問い合わせいただくことも可能です。まずは、1階正面玄関近くの患者相談窓口（がん相談支援センター）までご連絡を。または、各診療科の担当医や看護師などにお声がけください。



奥澤星二郎 Seiji Okusawa

済生会横浜市東部病院
緩和ケアセンター長
緩和ケア内科専門部長
消化器外科医



CASE 1 痛みや抗がん剤の副作用、
気持ちの落ち込みなどによって
不眠になり、困っている。

精神科医・心理師による面談や投薬に
よってそれらを和らげるよう支援します。

CASE 2 このまま仕事を続けられるのか、
医療費を払っていいのか、という不安がある。

職場にどう伝えるか・療養しながら働くにはどうしたらいい
かなど、就労に関する相談ができます。「高額療養費制度」
の利用方法をお伝えしたり、メディカルソーシャルワーカー
が治療費などの相談にもります。

たくさんの専門家があなたの味方に！

これが「緩和ケアチーム」

当院の「緩和ケアチーム」は、医師・看護師のほかに各種専門職からなり、みなが連携して患者さんのケアを行います。連携は病院内だけにとどまりません。どんな職種がどんな役割を果たしているのか、ご紹介しましょう。

心と体のよろず相談
受け付けます

東部病院の
がん患者サポート

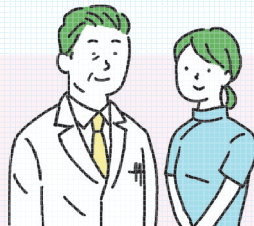
あらゆる分野のプロがチームとなって 患者さんを支えます

あなたらしく
暮らしていくために



⑥ 緩和薬物療法 認定薬剤師

さまざまな症状をコントロールするため、医師に薬を提案したり、患者さんに服薬の指導をします。



④ 専従の緩和ケア内科医／ 専門・認定看護師

緩和ケアチームのリーダーとして、きめ細かな業務を実践できるよう、また効率よく機能を発揮できるよう、チームを一つにまとめる役割を担っています。

⑤ 公認心理師

心の問題に対して、カウンセリングなどを行い、精神科医とも連携の上、専門的にサポートします。



⑦ ソーシャルワーカー

「高額療養費制度」など医療費の支払いに関する制度のご紹介、在宅療養や訪問看護の調整、緩和ケア病棟への転院手続きなど、多方面から生活全般をサポートします。

病院で



① 各診療科の医師／ 看護師

病気そのものの治療を行いながら、並行して緩和ケアチームと連携し、早期から緩和ケアを開始します。



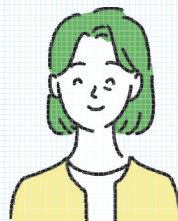
② 理学療法士／作業療法士

食事やトイレ、移動といった日常生活動作を維持・改善するため、病状に合わせたリハビリを行い、充実した生活が送れるようにサポートします。



③ 管理栄養士

患者さんの状態や嗜好に合わせ、食事の内容・量・回数・温度を指導したり、栄養補助食品の使用などを提案。病気や治療による栄養障害の改善や栄養状態の維持に努めます。



⑧ 地域の病院・ 訪問診療所の医師

患者さんのご要望に応じ、ご自宅や他病院など、院外のどこでも良質な緩和ケアが継ぎ目なく受けられるよう、当院は複数の地域の病院や多くの訪問診療所の先生方と密接に連携しています。

地域で



⑨ 訪問看護師

在宅で療養される患者さんのために、定期的にご自宅にうかがって患者さんの状態などを詳細に把握し、情報を医師などと共有・連携します。



緩和ケアチームは通常、患者さんからのご要望を受けて、あるいは主治医からの要請を受けて、各診療科での治療と併せてサポートを開始します。

入院患者さんの場合、平日は毎日病室におうかがいます。また入院患者さんでなくとも、緩和ケア外来（要予約）で診療します。さらには通院が困難になった患者さんには、自宅近くの訪問診療所や訪問看護ステーションに依頼し、自宅で良質な在宅ケアが受けられるように対応します。終末期ケアに関しても、緩和ケア病棟を有する近隣施設の紹介も行います。

チームの役割はいわば「心と体のよろず相談」。患者さんの QOL（生活の質）の改善を図るのが目的です。例えば、がんの告知を受けた人の約3割が、ひと月以内に仕事を辞めしてしまうという数字もありますが、治療と就労を両立させる相談も行います。

また、啓蒙活動として患者さんやご家族を対象とした「緩和ケア教室」や公開講座の開催、院内外の医療従事者向けの研修会や研究会も行っています。よりよい緩和ケアのために、他のがん診療連携拠点病院と連携を深めています。このようなさまざまな取り組みによって、当院では「一歩先の緩和ケア」を目指しています。

{ ケアチームと共に 患者さんの声 }

大きな手術はしないと決めたものの、不安でいっぱいでした。ですが、看護師さんが受診に同席してくれて、家で困ったことや心配なことがあったときには、電話ですぐに相談にのってもらいました。入院したときにはソーシャルワーカーさんが来てくれて、訪問看護師さんやケアマネジャーさんに連絡を取ってくれたので、退院後の心配もせずにすみました。先生が「旅先」と検査結果を用意してくださったりして、好きな旅行にも出かけています。相談できるところがあると、自分も家族も気持ちが楽になります。ぜひ、相談にのってもらってください。

80代女性／膀胱がんで通院中

大腸がんで、通院しながら手術と抗がん剤治療を受けています。がんとわかったときも転移が見つかったときも、心理的につらかったのですが、悩みを聞いてもらうことで安心できました。また抗がん剤治療でつらいときに、いろいろアドバイスをを受けたりして、少し楽になりました。私たち患者が求めているのは、前向きな希望が持てる言葉です。心から患者に寄り添ってくれている人たちの励ましの言葉は心に響きます。緩和ケアは、絶対に必要です！

50代女性／大腸がんで通院中

緩和ケアって何？

当院制作
オリジナル動画公開中！



ご相談・お問い合わせは
「がん相談支援センター」へ。

がん相談支援センター

1階5番患者相談窓口
(平日8:30～17:30)

東部病院がん相談支援センター

検索

公開講座については、
4ページをご覧ください。



LEADERS

リーダーたちが語る東部病院の医療

東部病院を牽引するリーダーたちの姿・人柄・取り組みに迫ります。

vol.20

緩和ケアセンター長・
緩和ケア内科専門部長・消化器外科医

奥澤星二郎

望まれた道を自分らしく歩む

東部病院で緩和ケアに取り組む奥澤が、医師を志したきっかけは、高校生の時。同郷の先輩の言葉に共感したからだ。

「進路に悩んで医師の先輩に相談したら、どの道を選ぶかは問題ではなく、自分が選んだ道をどう自分らしく歩むかが重要だ」と言われたんです。とても感動しました。その人の生き方にも憧れて医学部を目指しました。

そうしてなった消化器外科医は天職だと感じた。40年近くキャリアを重ね手術を中心にがん診療に携わる中で、緩和ケアの重要性を認識していった。

そしていくつかの病院を経て、2年半前、古巣の済生会神奈川県病院へ復帰する。その際、緩和ケアに取り組むよう依頼された。

「今こうして緩和ケアに取り組んでいることは、私には自然の流れなのでしょう」

自分のやりたいことをしたほうが、仲間もできてうまくいく。それが奥澤の考え方だ。

「望まれて自分が進んだところで頑張ります」

そして今年4月、東部病院に赴任し、現在に至っている。

患者さんの心の声に
耳を傾けて共に悩み苦しむ

緩和ケアについて、奥澤は「困りことよろず相談窓口」だと説

必要なのは、
静かな熱意や
深い思いやり
だと思ふ。

明する。患者さんの体の痛みだけでなく、心の痛みや社会的なつらさを和らげることを目指しているからだ。そのためには、患者さんが抱える痛みや困難をよく知ることから始まる。

「患者さんの心の声に耳を傾け、共に悩み苦しむ。精一杯の思いやりを込めて、ミスのない良質なチーム医療を実践すること。これはすべての医療人にとっての普遍的なコンセプトです」

奥澤はそう力説する。
鎮痛剤が効かない患者さんが家族に体を優しくさすられ、気持ちよさそうに目を細めている。鎮痛剤を用いても不穩の強かった患者さんが、家族と並んで穏やかな表情でいる。奥澤は、そんなシーンをたくさん見てきた。

「必要なのは、静かな熱意や深い思いやりなのだと思います。『心配』ことではないですか。『ご家族はお元氣ですか』と切り出すと、身の上話になる。これもあります。それを聞くだけで、『心』の

もやもやが取れた。『痛みが案になった』と言ってもらえたりします。効果をめたらすのは薬剤だけではなんです」

東部病院の緩和ケアチームには、精神科出身の緩和ケア内科部長もいて、奥澤と共にチームを牽引している。

「彼には精神科医としての豊富な経験がある。だから、患者さんから話を聞き出すのもうまいんです。お互い専門分野が異なるので、知識を共有し、補い合うことができます」

奥澤の朝は医師同士の打ち合わせから始まる。その後、緩和ケアチーム全員で電子カルテを見ながら患者さんの情報を共有し、誰が何をすべきかを話し合う。そして回診に出て、入院患者さんや家族を診察。その際、各診療科の看護師から相談を受けることも多い。緩和ケアチームが介入すべき患者さんがいて、病棟の看護師や薬剤師と話し、支援の内容を検討。それをまた各診療科の医師と共有する。

さらに、東部病院には「緩和ケア外来」もあり、通院している患者さんの心の悩みを中心、予約制で時間をかけて診察。その他に、院内の研修や各種カンファレンスなど勉強や啓蒙のための活動が多数ある。緩和ケアは地域とも連携しているの

で、院外との行き来も多い。

奥澤が今一番気にしているのは、緩和ケアは診断されたときから始まる」ということが、まだ広く伝わっていないことだ。「緩和ケアと聞くと『自分はもう終末期なんだ』と思う患者さんもいます。そうではないというところを、もっと知ってもらいたいんです」

そこで、患者さんや家族向けの「緩和ケア教室」や公開講座を開催している。さらに、がんの療養に役立つ情報をわかりやすく要約した動画を奥澤が中心となり、チームメンバーで自主制作した。この動画は、院内で放映したりホームページで公開している。

「私たち病院職員はみな、駅伝ランナーのようなものです。それぞれ立場も仕事も違いますが、一人がたすきを携え、後輩に渡すべく走っている。挫折することなく、病院をさらに発展させるために」

挫折せず続けていくためには、どんな小さな工夫もするべきだし、それが業務の改善につながる――奥澤はそう考えている。



ミニチュア・シュナウザーの愛犬「ミルト」との散歩が奥澤の癒やしになっている。家族という存在の大きさを感ずる瞬間でもある。

奥澤星二郎

Seijiro Okusawa

済生会横浜市東部病院
緩和ケアセンター長・緩和ケア内科専門部長・
消化器外科医

1953年生まれ。慶應義塾大学医学部卒業後、米国家サチューセッツ総合病院に留学。済生会神奈川県病院、佐野厚生総合病院勤務を経て、2017年に再び済生会神奈川県病院に戻り、緩和ケア部長を務める。2019年より済生会横浜市東部病院に移り、現職。日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、全国公私病院連盟顧問。

趣味のDIYはかなりの腕前。木材の裁断から仕上げの塗装まで、全部自分一人で行う。このチェストは幅270×高さ180センチの大きな作品。使いやすさを第一に考え、設置スペースに合わせて独自に設計・製作した。



患者さんのデータを見ながら、看護師や薬剤師と打ち合わせ。緩和ケアチームの他のメンバーと情報共有し、どうしたら患者さんにとってよりよい支援になるかをさまざまな角度から検討する。奥澤の仕事において、とても重要な時間。



※DIY =「Do It Yourself」の略。主に日曜大工のこと。

NEWS & TOPICS

WEB 予約サービスを 開始しました

泌尿器科・ロボット手術外来・道交法認知症外来・リブログクシオン外来について、初診の予約に限り、ウェブサイトから予約をお取りいただけるようになりました。インターネットにアクセスできる環境があれば、24時間いつでも、どなたでもご予約いただけます。

WEB予約フォームへのアクセスは、下のQRコードからどうぞ。予約フォームに必要な項目をご入力いただき送信すると、確認用のメールが届きます。

今後、本サービスは対象の科を増やしていく予定です。ぜひご利用ください。

※泌尿器科・ロボット手術外来は紹介状が必要です。予約の際にご用意ください。



膀胱がんロボット支援手術 ランキング全国3位※

※週刊ダイヤモンド
編集部調べ

近年、医療の現場では、患者さんの身体への負担を少なくできることなどから、手術支援ロボットが活躍の場を広げています。当院でも2012年に横浜市で初めて手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入してから、その実績を積み重ねてきました。

『週刊ダイヤモンド』誌(10月19日号)の「選ばれるクスリ・医者・病院」という特集記事において、「ロボット手術数ランキング」が発表されました。同誌編集部が全国の病院に行ったアンケートの結果、当院は累積総合ランキングで40位と発表され、疾患別の手術数ランキングでは、膀胱がんで全国3位(2018年度)となりました。

また、当院泌尿器科は医師がダヴィンチの操作資格を取得するために訪れる症例見学施設に指定されており、前立腺・腎・膀胱すべての手術について指定を受けている全国で15施設しかない病院の一つです。

今後もロボット支援手術の領域は広がると見込まれています。当院でも直腸がん(今年度中)、肺がん・縦隔腫瘍(2020年度初め)の手術実施を準備しており、ロボット支援手術はさらに拡大していく予定です。

当院のロボット支援手術について、詳しくはホームページをご覧ください。右のQRコードからアクセスできます。



「子どもと医療を結ぶ プロジェクト」開催

子どもたちに医療や健康をより身近に捉えてもらおうと、この夏、当院では「子どもと医療を結ぶプロジェクト」として4つのイベントを開催しました。

7月28日の「臨床検査の仕事体験しよう!」では、小学5・6年生29名が、採血やエコーといった検査業務を体験しました。8月25日には、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社との共催で「ブラックジャックセミナー」を実施。整形外科手術や超音波メスを使った縫合、心肺停止患者の救命処置などを中学生27名が体験しました。

また、8月30日は、当院のCLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)による企画として、映画『子どもが教えてくれたこと』を上映。慢性疾患の子どもたちの暮らしを地域の皆さんにご覧いただきました。

9月1日には、当院ロボット手術センター主催の先端医療体験セミナーを開催。中学生7名とそのご家族が最新鋭の手術支援ロボットの操作を体験し、その様子は翌日の朝日新聞でも伝えられました。

当院ではこうした取り組みを今後も続けていきます。地域の皆さまのご参加・ご要望をお待ちしています。



INFORMATION

健康市民よこはま公開講座のご案内

- 12月10日(火) 14:00~16:00
「切らずに治そう! 膝の痛み」
整形外科 谷川英徳・OLSチーム
- 1月21日(火) 13:00~16:00
「転ぶということ」
鶴見消防署・救急科 山崎元靖ほか
- 2月8日(土) 10:00~12:00
「子供の肥満」
小児肝臓消化器科・栄養部・日本経道協会

※いずれも無料・予約不要です。
会場の当院3階「多目的ホール」にお越しください。



どなたでも
ご参加
いただけます

済生会神奈川県病院 INFORMATION

大腸内視鏡検査のご案内

近年、大腸がん(結腸がん・直腸がん)は著しく増加傾向にあります。わが国における大腸がんの罹患数は、2017年の悪性腫瘍死亡率では、男性3位、女性1位、男女計は肺がんに次ぎ第2位と高くなっています。

ご家族に大腸がんや大腸ポリープのある方、また便潜血検査の結果が陰性でも、50歳を超えたら一度は大腸内視鏡検査を受けることをおすすめいたします。

神奈川県病院予防医療センターでは、人間ドックや生活習慣病予防健診のオプションとして大腸内視鏡検査をお受けいただけます。詳しくは下記にお問い合わせください。

- 済生会神奈川県病院 予防医療センター
電話 045-432-1117(直通/平日9:00~15:30)

医者メシ!

現場スタッフの活力となる食べ物、こっそり!のメニューなど、ご紹介します。



緩和ケア内科
医師
奥澤

私のリフレッシュといえば、ミントタブレットです。ポケットに必ず入れてあります。それもこの緑の「クロレッツ」がいいんです。口に入れると、頭も気分もすっきりして、再び「やるぞ!」と気持ちのスイッチを入れることができます。



リハビリテーション部
理学療法士
平塚

1日頑張った自分へのご褒美や、のんびり過ごしたいときの一杯として、スターバックスコーヒーのコーヒーフラベチーノを飲みます。チョコチップをトッピングするのが私の定番で、ほどよい甘さに癒やされています。



医事企画室
地場

趣味でトライアスロンをしていて、日頃から高タンパクな食事を心がけています。サラダキンとオikosヨーグルトが好きです。小腹が減ったときに食べて、仕事への活力を充電しています!

